

Title	悲嘆とスピリチュアル・ケア実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：聖学院大学総合研究所スピリチュアル・ケア研究室、聖学院大学大学院人間福祉学研究科主催講演会）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-5 : 30-34
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2365
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院大学総合研究所スピリチュアル・ケア研究室、聖学院大学大学院人間福祉学研究科主催講演会
悲嘆とスピリチュアル・ケア
実施結果—アンケート集計結果の概要—

スピリチュアルケアが医療、看護、介護、福祉、教育など幅広い領域で話題になっている。現代人は生きる意味、存在の価値や死後のいのちなどの問いを抱え、魂の渇きを感じている。臨床死生学

の第一人者で、クリスチャン精神科医の平山正実先生のお話をうかがう。

日時 2010年1月16日(土)13:30～15:30

場所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

主催者挨拶 阿久戸光晴（聖学院大学学長）

講演

「悲嘆とスピリチュアル・ケア」

平山正実（聖学院大学大学院教授・カウンセリング研究センター長）



平山正実 聖学院大学大学院教授による講演

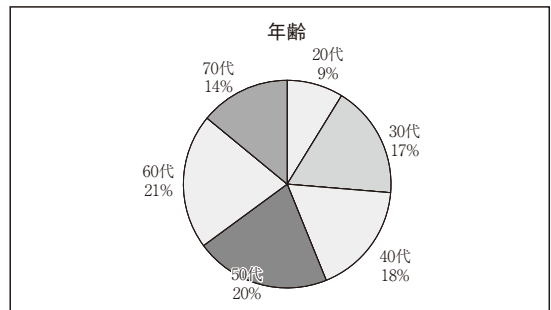
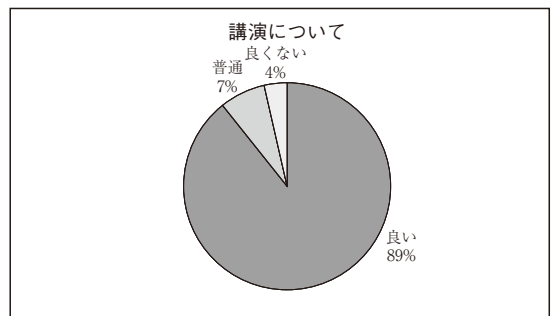
質疑応答

司会 窪寺俊之（聖学院大学大学院教授）

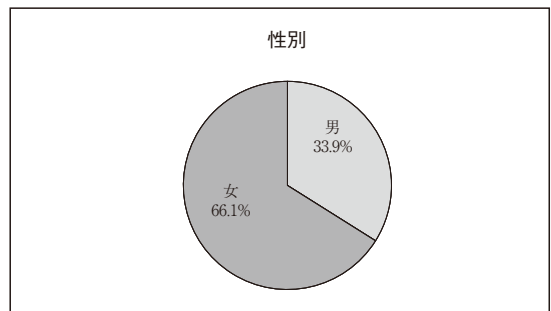
【後援】キリスト新聞社、クリスチャン新聞

【結果の概要】

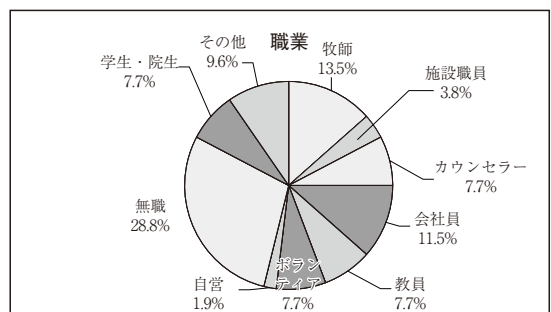
- ・参加者の人数は107名。内、アンケート回答者は58名。
- ・「講演について」は、「良い」が89%と高い評価を得た。
- ・「自由意見」として、「参考になった」「難しいテーマだった」など。



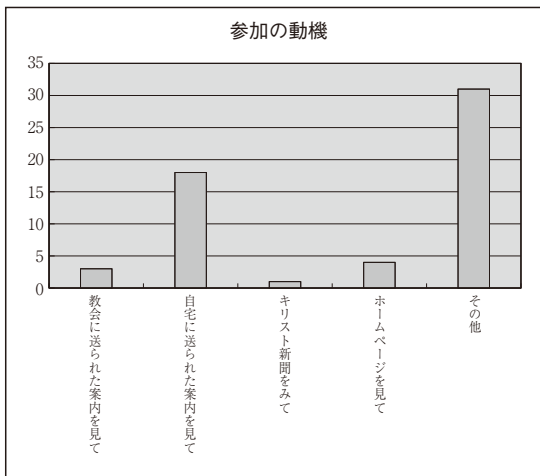
* 回答者の年齢は、各世代にわたっていた。



* 性別は、「女性」が66%と多かった。



* 職業別には、「無職」が最も多く28%、次に「牧師」13%であった。「その他」の内容は、「医師」「ケアマネージャー」「福祉職」「ソーシャルワーカー」など。



*参加者の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。「その他」の内容として、「朝日新聞」「読売新聞」「職場で案内を見て」「友人の勧め」など。



会場は満席となった

自由意見

- ・難しいテーマでいつも胸の中でもやもや解決がつかえません。自分の中で少しずつでも消化できるといいなと思っています。本当にありがとうございました。
- ・一般的な生活の中では、全く聴く事の出来ないテーマ内容について詳細に深くお話しありがとうございました。まさに“気づき”の時であったことを心より感謝いたします。
- ・平山先生のお話は難しすぎました。もう少し易しい言葉でお話くださったらとも思いました。少しの時間では内容の濃いテーマでした。他の先生が説明して下さり良かったです。存在を支える要因として、宇宙論的問題（環境）について、追加要因に挙げられていたことが興味深かったです。ありがとうございました。
- ・スピリチュアルという言葉がひとり歩きし、その本質を失っているような場面に出会うことがあります。これはとても悲しいことです。おそらく、スピリチュアルという言葉を用いず（知らず）とも、また、とても厳しく辛い体験をせずとも日常の中でちょっとした快適体験、気づき、ああ！という感覚、至高体験…。その人がその人らしく生きていくための転換点はたくさんあるのだと思います。ただ、より厳しく大変な体験（病や障害など）に直面したとき、そのことがより深く厚く浮上し、それがスピリチュアルにつながっている事象なのでは、と考えます。
- ・「傷から新しい原動力が生まれる」という言葉に学ぶことができました。植物の伸びすぎた枝を切ること（悲しい出来事）によって、新しい枝葉が伸び、新たに成長します。それと同じであり、「人間は考える葦である」という言葉の真実がここにあるのかなと思いました。また、私たちの信じるキリスト教、神様のはじまりもイエス・キリストの喪失からはじまります。そのことから私たちがキリストの喪失の中で、しかし神によるスピリチュアルケアの中で生かされているのではないかと考えます。死は存在の大切さ、真実を知らせてくれる出来事の一つだとも思います。神の人間に対する目的は命の尊さに気づく事なのかも知れません。
- ・やはり、現代人の魂の渇きを痛感せずにはおれません。主の十字架の愛と復活以外癒しはあり得ないのだと再確認させられました。
- ・阿久戸先生のごあいさつも深い意味のあるお言葉がつまっており、深く心に刻みました。平山先生のお話は分りやすく、しかし深いので少し角度をかえて何度も伺いたいくらいです。本当にありがとうございました。
- ・三ヶ月ほど前になりますが、TVで藤井美保氏の死生学についての話を聴き、心に残るものがありました。今回の講演により、私の中の小さな扉が少し開かれたような気がします。最後のビュッフェの作品はとても分りやすく感じまし

た。

- ・50代半ばで自死した娘を持つ母親として共感、納得の出来るお話の内容でした。昨年の出来事です。よりよく生きるために今は残された人生を亡き娘と共に過ごそうと思っております。今日のお話がとても為になりました。
- ・「無」の定義に差異があるかもしれないが、私は無は全と同義であり、存在とは無 (=全) から人の意思、心から生み出されるもので、その意味で無と存在と心は結びついていると考える。
ある母親の夢。母親は通常子どもを導くものだが、ここではその逆転がある。しかし依存という観点では、親子は相互に依存的な観点があり、この夢にはそのことへの気づきがみとれるのではないだろうか。
芸術作品について。芸術作品は創作者の心と触れるもののこころを投影する。人の心は無から存在を生み出すが、故に両義性を持つと考えることができるのではないか。
- ・死生学やスピリチュアルケア、ペインを今後研究していく者として、大変参考にさせていただきました。特に今回の講演では平山先生の哲学や価値観が多分に繁榮されており、興味深かったです。また、質問コーナーでは窪寺先生、平山先生、聴講している方々の独自のスピリチュアル感を聴けて大変有意義でした。ありがとうございました。
- ・今回の講演は目からウロコの落ちるような感動を覚えました。存在は非存在と密接に関係していることの禅問答のような問いかけは、私の今後のライフワーク的問いかけになりそうです。ありがとうございました。
- ・質疑応答の時間が長くあったので、お二人の先生のお考えを学び、有意義でした。ありがとうございました。
- ・高齢者の私にとって、難解な部分もありましたが講演の大意はつかむことが出来たように思います。
- ・普段の生活の中ではかすんで見えない本質が、不幸な出来事においてハッキリする事がわかった。

- ・休憩後の質疑応答が、皆さんの本音や真情が聞けてよかったです。図書目録の中に講師の先生のご著書があったので、より詳しく読みたいと思いました。
- ・最後の質問の事は興味があった。個人的な気づきとしては「気づきはスピリチュアリティの働きであり、動的な力であること」は同感である。
- ・スピリチュアルケア、気づき、など正しい理解が必要という事がわかりました。
- ・ありがとうございました。スピリチュアルケアについての考えを整理できて、大変良かったです。
- ・継続的に学んでいきたいテーマです。ありがとうございました。
- ・会場の参加者も加わってのディスカッションは有益であった。
- ・深い、かつ盛りだくさんの内容の講演を感謝しております。これからも有意義な講演を期待しております。阿久戸先生、窪寺先生、平山先生…聖学院大学の素晴らしい教授陣がおられてこそだと思います。
- ・他にも、ウエルビーイングやエンパクメントなどの相談援助におけるシンポジウム（講演会）を希望します。
- ・ありがとうございました。ただテーマが大きすぎて、駆け足でやらなくてはならない感じを受けた。もっと回数を設けて一回一回丁寧に行ったら良いと思う。(有料でもかまわない)
- ・自死ではないが、身の回りの者たちの死を通して、その存在はないのだが、存在しているということをととても感じます。講演会の題名に引かれて出席しましたが、難しかったです。柄にもなく出席したということでしょうか。働かせていない頭をわからぬまま伺っていましたが、いただいた資料を後でよく読み返してみたいと思います。
- ・テーマや言っていることは非常に興味深いが、難しすぎてよく分らなかった。期待をしていただけに残念です。
- ・話のレベルが高すぎて理解できませんでした。
- ・本日は大変有意義な時間をありがとうございました。近隣に住んでおりますので又、是非参加

させていただきます。

- ・とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・密度の濃い時間を過ごさせていただきました。
- ・いつもありがとうございます。
- ・とても関心のあるテーマだったので、学びが大きかったです。ありがとうございました。
- ・土曜日の設定は牧師の参加が難しいので、次回以降検討していただきたい。